

学校法人 青山学院
2008 年度事業計画書

学校法人 青山学院

2008 年度事業計画

青山学院は今、大きな変革の時を迎えています。

2008 年 4 月、大学では 1982 年の国際政治経済学部設立から 26 年目にして新設された総合文化政策学部と社会情報学部、経済学部の新設学科である現代経済デザイン学科、大学院では総合文化政策学研究科と社会情報学研究科及び経済学研究科の公共・地域マネジメント専攻がスタートします。また、青山キャンパス再開発の一環である高等部の建替え工事も、未来の教育の場にふさわしい校舎として生まれ変わるプランが完成し、いよいよ着工の運びとなりました。現在進行中の計画も含め、これらは、青山学院が目指す「21 世紀への青山学院」への確かな歩みであると言えます。

130 年余の前、アメリカからの宣教師たちが灯した小さな教育の火。幾多の困難を乗り越え現在に守り得たその火を更に未来へと受け継いでいくために、青山学院は、キリスト教信仰に基づく建学の精神を堅持し、青山学院の「再創造」と「変革」の遂行を推し進めるため、2008 年度の事業計画を、着実に進めてまいります。

【学院の重点項目】

1. 大学の new 学部・new 学科の設置

2009 年 4 月に予定されている文学部改組による new 学部並びに経営学部の new 学科の設置に向け、準備を進めていきます。

1) 教育人間科学部（仮称）

人文学という共通基盤を持つ 6 学科から成る文学部は、伝統的な人文学的手法を主な研究方法とする学科（英米文学科・フランス文学科・日本文学科・史学科）と実践フィールドを背景に持ちひとりひとりの人間を考究の対象とする学科（教育学科・心理学科）とで構成されていますが、これらについては、学問上異なる系統との認識が今日では一般的となっています。それゆえ、各学科の学問内容や目標とする人材養成像を具体的に示すためには、2 つの系統を独立させて、それぞれの特性を明確にすることが求められます。

そこで、これまでともに一体感をもって教育目標・人材養成を追及してきた教育学科・心理学科を教育人間科学部（仮称）として一つの学部改組し、次のようなコンセプトのもと、両学科の教育力を高め、いっそうの発展を図ります。また、教師やカウンセラーに代表される社会的要請の強い人材を養成する学部として、青山学院大学が果たす社会的貢献の一翼を担うことを目指します。

教育人間科学部（仮称）のコンセプト

学問的叡智を深めるとともに、ひとりひとりの人間に焦点を合わせた臨床的なアプローチを重視し、社会における様々な実践に貢献できる研究・教育活動を進めます。

人間の教育、心理、発達を扱う学問分野に基礎をおき、様々な社会や環境の中で

成長・発達し、より良い生（well-being）を主体的に追い求める人間を研究し、人間が果たす役割、その行動や思考、人間と人間の関わり合いやコミュニケーションなどを考究します。

2) 経営学部マーケティング学科

20世紀に生まれた「マーケティング」は、あらゆる国々で企業の原動力となっただけでなく、政治・社会・文化・組織の推進役となってきました。しかし、21世紀に入り、市場経済のグローバル化、情報技術を活用した新しいビジネスモデルの出現、企業の社会的責任、コンプライアンス、そして環境規制の強化など、企業が直面する問題はより複雑になっています。これまで以上に深い専門知識が必要とされると同時に、さまざまな分野を統合したホリスティックな知識と創造力が求められます。

このような社会の進展に伴い、マーケティングも従来の工業製品を対象とする生産効率を上げるためのマーケティングから、知識創造型の産業を中心に据えた、無形資産・知的財産・サービスを対象とする統合思考に基づくマーケティングに転換しています。

本学科では、異文化理解や国際社会との関係を包摂する統合マーケティングの考え方をベースに、他大学の類似した学科にはない斬新な教育プログラムを用意します。企業が直面する新しい課題に対応して、現代メディアの特質や消費者の感性や、欧米やアジア諸国の文化的なビジネス環境を理解し、自らの力で考え、問題を克服できる人材の育成を目指します。

2. 青山キャンパス再開発の取組み

青山学院の50年後のあるべき姿を想定し、2006年12月に策定した「21世紀の青山学院 - Re-creation and Transformation - ~ 伝統の中での新生、青山学院の新たな出発 ~ 」と題する教育・研究を中心とした「アカデミック・グランドデザイン」と、それを基に「礼拝の杜」、「社交の学び舎」、「ひと・まち・地球にやさしいキャンパス」をシナリオコンセプトとし、新たなキャンパスイメージである「グリーン青山 - 環境と共生し、進化する青山スタイル」をキーワードとして具体的なキャンパスの将来構想を策定中の「キャンパスマスタープラン」。2008年度、青山学院はこの2つの構想を融合した青山キャンパス再開発の全体構想である「青山キャンパス・グランドデザイン」の実現に向け推進していきます。

青山キャンパス再開発としては、2007年8月に完成した初等部校舎の建替えに続き、2008年度は高等部校舎の建替えと大学A棟（仮称）の建設に着手します。

高等部校舎建替工事

高等部の校舎建替えにあたっては、高等部の「教育方針・教育理念・教育目標」にそって、青山キャンパス全体のマスタープランの考え方も取り込みながら、教員・職員への詳細なヒアリングを実施し、高等部建築委員会での検討を重ね、建物の概要を決定しました。

設計のコンセプトとしては、「土地のポテンシャルを十分活かした、ひと・まち・環境にやさしいキャンパスづくり」、「歴史と伝統を未来に飛躍させる顔づくり」、「生徒にとって居心地のよい場所づくり」の3つを基盤とし、特に「暑熱環境緩和」、「防災・セキュリティ」、「省エネルギー・省資源」等、土地の環境的ポテンシャルを最大限活用した計画とすることで、21世紀の環境配慮型建築の証明である最高評価「CASBEE」(建築物総合環境性能評価システム)Sランクを目指します。

- ・面積
延べ面積：24,479.17 m²
建築面積：8,201.63 m²
- ・建物の規模
建物の高さ：27.5m
階数：地上5階・地下1階建
構造：鉄筋コンクリート造(アリーナ・講堂ほか一部鉄骨造)
- ・工事期間
期工事着手 2008年3月初旬～ 期完成 2010年3月予定
期工事着手 2010年4月予定～ 期完成 2012年7月予定
期工事着手 2012年8月予定～ 期完成 2014年12月予定

大学A棟(仮称)新築工事

大学A棟(仮称)は「大学A棟(仮称)に関する検討委員会」の答申にそって、2009年度から計画されている学生数の増加、及び居ながらの建替えの最初のバッファーとなることに留意した機能と広さを確保しつつ、「青山キャンパス・ランドデザイン」に調和した建物とします。

建設場所は12号館を取り壊して、その跡地、それに続く大学のテニスコート敷地、及び石坂ガーデンの一部合計3,500 m²を充てたいと考えています。

2007年度に敷地内の遺跡調査、既存樹の保存・移植作業等準備作業の一部に着手していますが、今期は基本設計、詳細設計のプロセスを経て本格着工を目指していきます。

3. 常青寮跡地活用の推進

2007年3月に廃止した常青寮跡地(敷地面積1,305 m²)に新たに建築する建物は、青山・表参道の地理的環境を最大限に生かし、学院のステータス向上を目指すものとし、その目的は、21世紀の青山学院にふさわしい新たな文化創造、産学連携、事業創出を行うものであり、また、学院財政の健全化としての収益性にも寄与できるという複合的目的にしたいと考えています。

概要としては、

社会と連携し、学院の教育研究及びその他の事業展開を育成するインキュベータ
拠点

青山学院の建学の精神に相応しい事業化シーズの拠点(SOHO: Small Office/Home Office)
エクステンションプログラムの講座のための教室を置き、学生のライフデザイン
を支援するとともに、地域文化の向上と活性化に貢献する

地域や社会に開き、近隣の学術研究文化施設・美術館・アトリエ・メディアとのコラボレーションを具体化し、卓越したクリエイターや文化的市民とともに様々な実験的事業等に取り組むほか、特定分野についての情報の集積と加工、発信（アーカイブ）機能等も加える

今後は上記目的を踏まえた詳細設計のプロセスを経て、9月の本格着工を目指していきます。

- ・建物の規模 地上4階、地下1階
- ・工事期間 工事着手2008年9月予定～完成2009年9月予定

4. 「青山学院 EVERGREEN 21 募金」の取組み（目標額10億円）

2004年12月に活動を開始した「青山学院 EVERGREEN 21 募金」も、活動期間は余すところ2年となりましたが、目標額達成に向かって弾みをつけるべく、2008年度は下記のような課題に取り組んでいきます。

新趣意書の作成

企業・法人等への寄付要請の更なる強化(企業訪問等の強化)

校友会支部とタイアップしての地元企業等の訪問

更なる校友会との連携強化

新趣意書の作成については、可能な限り青山キャンパス再開発の具体的な建物の概要や立面図等を記載し、詳細な情報をいち早くお届けすることにより、趣意書を手にとられた皆様に募金へのご理解とご賛同をいただける内容構成を心がけていきます。また、他大学等の周年募金との競合及び社会的状況の変化等により、企業等への募金活動は困難な状況下にあります。ご支援をいただくため一層の積極的な展開をはかるとともに、校友会(支部会も含めて)との連携を更に強化し、校友等へも募金へのご理解とご協力をお願いしていきます。

【法人】

1．情報セキュリティへの取組み

2007年度は、「青山学院で学ぶ人や奉職するすべての人を守ること、それが青山学院を守ることにつながります」を理念とした『青山学院情報セキュリティポリシー』を策定いたしました。これを締め括りとして3年間に亘る導入に係る事業を完遂し、情報の漏洩や改ざんなどに起因する危機から学院を守るこの取組みの礎を築きました。

2008年度からは、これからの時代の流れに応じて「整え」「備え」ゆくために、このポリシーに基づきさらなる啓発と改善に努め、日々の教育、研究また業務等に従事する中に定着させていきます。また、45種の規定より構成されるこのポリシーは、2008年10月には正式に「青山学院規則」として制定し、学院を支える骨子のひとつとします。

2．大災害対策の強化

東京都では、中央防災会議首都直下地震対策専門調査会の報告書をもとに、平成18年5月に「首都直下地震による東京の被害想定」として、M7.3に加え、より発生する頻度が高いM6クラスの地震として東京湾北部地震と多摩直下地震の想定を公表しました。

また、青山キャンパスは、東京都震災対策条例にもとづき震災時に拡大する火災から住民を安全に保護するための避難場所として指定を受けており、学院には、学生・生徒・教職員等の他、渋谷4丁目、東1～4丁目地区39,000人の方々及び区民以外の帰宅困難者への情報やトイレ・水などの提供、あるいは一時的な休憩場所を提供するなどの支援を行う責務があると考えています。

これらのことから、青山学院では、大災害対策の見直しを優先的に行い、学院すべての学生・生徒等、その家族、教職員の安全・安心を確保することはもとより、地域住民の避難場所としての役割を学院に課せられた重要な社会的責任と認識し、受入れ等の体制を整備していくこととしました。

災害時にはまず避難することが第一であり、安全な避難場所の確保が最優先となりますが、キャンパス内で生命の安全が確保されたとしても、交通やライフラインの寸断により困難な避難生活が強いられる可能性があります。学院では、乾パン5,280個、飲料水4,680本、真空パック毛布800枚をはじめ避難生活に必要な品々を常備していますが、災害時の備蓄品としては量・質ともに十分とはいえないため、約1,400万円を計上し、3ヵ年計画で防災備蓄品・防災資機材の充実を図ります。初年度となる2008年度は約600万円をかけ、備蓄トイレ14,000回分、救急アルミックシート1,400枚、浄水器、エンジンカッター等約50品目にわたり整備する予定です。また、相模原キャンパスは青山キャンパスとは別に470万円を計上し、防災備蓄品の充実を図ります。

さらに、今後の青山キャンパス再開計画の中では、次の2つの防災コードの策定を計画しており、実現に向け推進していきます。

集中豪雨に対しては60mm/hを想定した貯留、浸透、排水計画を行い、屋根面へ

の降雨は可能な限り再利用する計画とする。また、敷地外周には出来る限り中高木を植栽し、近隣への環境配慮と風対策とする

地震時の避難者や帰宅困難者が生活可能な施設を目指すため、建築基準法の 1.25 倍以上の耐震性能を基本とし、アリーナ等の大空間には避難所として使用できる諸設備を設ける。また、再利用する雨水のうち少なくとも 1,000 t (1 回使用時に 8 として 125,000 回分) 以上は停電時にトイレ洗浄水として使用できるよう非常用発電機を設置する計画とする

3 . 防災の運用面の強化

2008 年度は、防災運用面の強化として、特に下記の 3 点を行う予定です。

青山・相模原両キャンパスで年 1 回行っている防災訓練のみならず、東京消防庁が設置している「防災教育センター」へ教職員 600 名を派遣し、防災技量の向上を図る
防災マニュアルの作成

上級救急救命講習 (教職員 50 名を対象予定)

4 . 青山学院知的資産連携機構の活動強化

青山学院の知的資産具現化とマネジメントを更に充実させるため、2008 年度は、前年度青山学院の知的財産を元に外部ステークホルダーと共に設立したハイテクスタートアップ企業、AGD マテリアル株式会社のサポートを充実させ、研究開発用新素材の普及を通し、広く社会貢献の実現を図ります。

さらに知財クリニックにおいて、外部ステークホルダーと青山学院内部組織との連携を強化し、青山学院にコンソシアムを設立し、更なる研究の促進と、伴う侵害リスクをミニマムに保つ努力を継続し、共有知的財産の保護と実施の充実を図ります。

5 . ICT 戦略の策定

青山学院では、ICT 戦略策定委員会の下、現在各学校単位で設備されている IT 環境について全学院的視野で見直しを図り、2009 年 4 月に予定されている基幹ネットワーク再構築に合わせ、下記の 3 点を行っていきます。

ICT 基盤である、学院外ネットワーク (インターネット) 接続及び学院内ネットワークのデザイン、仕様策定、導入計画策定を行い、2008 年 10 月を目標に 2009 年度導入機器の選定、運用仕様の策定を行う

ICT 基盤利用上の情報セキュリティ対策として、利用者認証方式の策定、及び運用仕様の策定を行う

ICT 基盤上で利用するアプリケーション (Web、メール、グループウェア、各種データベース、教育研究支援ソフトウェア、業務支援ソフトウェア等) の整備計画の策定を行う

【大学】

青山学院大学は、建学の理念と使命に基づき、教育研究活動の更なる充実と推進を目指すとともに、スクール・モットーである「地の塩、世の光」を体現し、公正な立場から社会の要請に応え、社会に貢献する人材の育成と教育を目標としています。その実現のため、2008年度の事業計画を下記のとおり策定しました。

1．学部教育の充実と改革

2008年4月に新設された総合文化政策学部、社会情報学部、経済学部現代経済デザイン学科について、入試の結果等を詳細に分析し、今後両学部をどのように発展させていくべきかを検討していきます。その際、すでにある理工学部と新設の社会情報学部、及び文学部と新設の総合文化政策学部の場合等、既存学部と新設学部との間で教育プログラム等の調整を行って既存学部と新設学部とが相乗効果を生み出すようにし、大学全体の活性化を図ります。

2009年4月には、文学部改組による教育人間科学部（仮称）と経営学部マーケティング学科の設置を予定していますが、引き続き学部、学科の改革を行うことにより、学部教育の強化・充実を図り、本学の競争力を高めることを目指します。

2．大学院教育の充実

大学が持つ大きな使命として「知の追究」が挙げられます。そのために行うべきことのひとつが大学院教育の充実であり、学部基礎を置く研究科大学院の充実と、専門職大学院の教育・研究の強化を目指します。特に本学の場合、法学研究科ビジネス法務専攻や国際政治経済学研究科等では社会人が大きな割合を占めていることもあり、単に専門職大学院だけでなく、社会科学系の研究科においても研究者・専門家を育成するためのプログラム強化だけでなく、社会人を対象とした大学院教育の強化を行っていきます。

3．青山キャンパスの再開発と教育課程の再配置

質の高い教育を行う上でも、他大学との競争力を保つ上でも、人文社会科学系学部については、全教育課程を青山キャンパスにおくことが将来の方向としての戦略の一つです。現在計画されている青山キャンパス再開発の進行に合わせて、人文社会科学系学部が教育課程（4年）を青山キャンパスになるべく早い時期に設置できるようにすることを目標とし、そのための中間目標として、引き続き1年次の教育課程を相模原キャンパスに、2年次以降を青山キャンパスに置く体制を整える準備を進めます。

4．相模原キャンパスの開発

青山キャンパスの強化・充実を図るだけでなく、理工学部と社会情報学部との調整・協力を進めながら、相模原キャンパスが同地域における学内外の研究所・大学等との連携を強めることにより、更なる相模原キャンパスの強化を目指します。さらに、青山学院の一貫教育と本学の教育全体を強化するために、相模原キャンパスにある学部教育と

の関係性・継続性を持たせた大学附属の中高一貫校を同キャンパスに創設することを必要と考え、大学としてもこの大学附属の中高一貫校設置計画の推進を検討していきます。

また、体育会硬式野球部の合宿所としてその役割を果たしてきている相模原寮(R棟)について、別棟を増築し、なおいっそう体育活動の振興及び福利厚生を図ります。

5. 研究体制の強化

2007年度から青山キャンパスに学術研究推進部が設置され、学内外の情報収集や外部資金獲得等を積極的に支援していく体制が整えられつつあります。外部からの研究・教育資金の獲得の現状については、本学の場合いまだ厳しいものがありますが、科学研究費に応募し他の研究機関等から研究資金を獲得することは、ただ教育・研究のための経済支援を得るというだけでなく、本学での研究・教育を社会に開かれたものとするという意味合いをもちます。

また、産官学の連携による社会貢献を目指して、社会連携機構のもとに社会学連携研究センター、WTO研究センター、ヒューマン・イノベーション研究センターが立ち上げられています。こうした方向性を更に強化するために2008年度からスタートする運びとなったのが、国際交流基金との連携によって本学に設立される国際交流共同研究センターです。文部科学省が進める「共同利用型研究所」の考え方に添い、従来国立大学だけに置いてきた共同利用型研究所を私立大学にも置くことは大変意義深いことであると言えます。国際交流の理論と実際に関わる研究は、明治初期から国際交流に深く関わってきた青山学院にふさわしいテーマであり、まだ日本ではこの方面の本格的な研究が少ないだけに、いずれ重要な位置を占めることになるものと期待されます。

6. エクステンションプログラムの推進

本学では、毎年10を越えるテーマについて青山と相模原の両キャンパスで公開講座を実施しており、学外の方のための教育や生涯学習については、長年の相当な実績があります。この公開講座プログラムをさらに発展させ、本学ならではの特色を加味し、また社会への貢献にも繋がるものとして構想されうるのがエクステンションプログラムであり、その実施に向け検討していきます。

本学の近辺には国連大学、劇団四季、根津美術館、六本木の国立新美術館等、教育・文化・芸術施設が数多く存在することから、グレーターアオヤマエリアにおいて、本学が一つの核を成すことが可能であり、これらの文化・芸術施設の協力のもとに本学がエクステンションプログラムを実施することにより、幅広い世代を対象に、本学の大学教育の新しいあり方を示すことができると考えています。

7. 国際交流の推進

国際交流は青山学院の基本理念の一つです。この分野において先進的な他大学との間に差が生じている事実を認識した上で、本学は原点に立ち返り、今後この基本理念の一つである国際交流を積極的に推進していきます。アジア、とくに中国、韓国、東南アジ

アの国々の大学との交換留学プログラムの締結を早急に開始するとともに、現在の外国人留学生数（約 250 名）の 5 倍の留学生を受け入れる体制を整え、外国人留学生のための語学（日本語）プログラムの充実を図ります。

8 . F D（ファカルティ・ディベロップメント）の充実と自己点検・評価の強化

専門職大学院においては2003年度より、研究科においては2007年度より、また、学部においては2008年度より、それまで努力事項であったF Dが義務化されることになりました。これに伴い、これまで教員個人に委ねられてきた授業改善等について、今後は大学としての組織的な取組みが求められることになりました。大学として充実したF Dを行うことが、結果的には大学教育の強化、教育・研究の活性化につながるものと考え、これまでプロジェクト体制で進めてきたF Dをさらに充実したものとするために、校内での新たな組織作りを検討し、F D活動の充実を図ります。

また、本学は 2007 年度財団法人大学基準協会の認証評価を受け、2008 年 3 月「大学基準協会の大学基準に適合していることを認定する。」との評価結果を得ました。専門職大学院においても、2008 年度にそれぞれ関係機関の認証評価を受ける予定になっています。認証評価の評価結果において助言、勧告等を受けた事項について対応することはもとより必要ですが、恒常的に自己点検・評価活動を行ない、改善を図っていくことが、大学の質の維持と向上につながるものと考え、自己点検・評価活動を活発に行っていきます。

【女子短期大学】

青山学院女子短期大学は、青山学院教育方針に基づき、本学の教育理念・目標である「女子の高等教育に専念し、社会のあらゆる局面で積極的な貢献をなし得る覚醒した女性の育成を目指し、現実に即した有用な専門の学芸のみならず、全人的で世界的な視野に立つ高度な教養教育を授ける」ことの達成を目指しています。2008年度の事業計画は、下記のとおりです。

1. インターンシップ等の学外学習・国際交流の推進

学内授業以外に、独立行政法人国際協力機構筑波国際センターでの学外学習・実習を含めて4単位の学習を行う国際協力に加え、那須のアジア学院での農業実習、清里のキープ協会での農業体験や、アジアを主とする外国でのボランティア体験参加などの奨励、米国の3つの大学と提携する姉妹校訪問学習などを通して、学生の学外学習・国際交流を推進します。

2. 健康教育の推進

2007年度文部科学省「特色ある大学教育プログラム」に採択された「健康教育授業を軸とした健康支援」に基づき、正課である健康教育科目を軸に、正課外の健康支援プログラムと課外活動プログラムを連動させ、学生の体力の維持、健康増進、健康意識の向上、生涯スポーツ活動の基礎づくりを推進します。

3. 講演会・講習会の充実による学生の資質向上の推進

学生の資質向上を推進するために、以下の講演会・講習会等の充実を図ります。

宗教活動委員会、国際交流委員会主催による講演会

学科主催の講演会

学生部主催の就職関連・キャリア形成に関する講習会・課外活動プログラム

4. 全学自己点検・評価委員会による教職員の資質向上の推進

ファカルティ・ディベロップメント（FD：教員が授業内容・方法を改善し、向上させるための組織的な取り組み）が2008年度から義務化されたことに伴い、全学自己点検・評価委員会主導のFD及びスタッフ・ディベロップメント（SD：職員の職能開発）活動を通じて、教職員の資質向上を推進し活性化を図ります。

5. シオン寮耐震補強工事の実施

シオン寮の耐震診断結果に基づき、学生の安全確保を第一義的に考え、2008年4月よりシオン寮を一時閉寮して耐震補強工事を実施します。在寮生は、2008年4月から1年間代替施設において教育寮としての寮生活を継続することになります。シオン寮は、耐震工事終了後、2009年4月から教育寮として再開する見込みです。

【高中部】

青山学院高中部の教育理念

本校は、青山学院教育方針にもとづいて、ひとりひとりの生徒の人格を育み、その自己実現を支える。また、与えられた自分の力を他者のためにも使い、隣人と共に生きることを喜び、平和な社会に貢献する人間の育成を目指す。

高等部並びに中等部は、2008年度の事業計画を下記のとおり策定しました。

【高等部】

1. 高等部校舎の建替え（第 期工事：2008年4月～2010年3月の予定）

2008年度は、高等部校舎の体育館と南A校舎を解体し、西棟（仮称）の建設に取り掛かります。この第 期工事期間における生徒の安全を確保するため、工事区域と生徒生活区域を明確に分離し、事故の未然防止に努めます。

また、高等部校舎外の臨時借用施設による授業や課外活動により、生徒サービスに質の低下を招かないよう適正な環境の確保・維持に努めます。

2. 高大連携施策の推進

高等部を取り巻く環境は、大学による付属校の増設、女子高の共学化、都立・私立校の中高一貫校化などにより、少子化における受験者の争奪がますます激しくなっており、他校との差別化をより鮮明に打ち出す必要があります。そのために高等部の強みである総合学園の特色を活かし、中等部からの志望者も視野に入れた高大で連携した下記重点施策の実現に努めます。

授業相互間での単位認定制の検討

『学問入門講座』受講方法の改善

3. 広報活動の充実

従来の各種相談会や学校説明会の機会を増やすと同時に、高等部ホームページを中心とした広報手段の改善と充実を図ります。

学校紹介ビデオ及びパンフレットの再編集

相談会や説明会における高等部記念グッズの配布

高等部ホームページの再構築

4. 学校評価制度の確立

生徒による授業評価、後援会評議員アンケート、教職員の自己点検などで行ってきた学校評価を2008年度は全体的に見直し、更に充実したものにします。

【中等部】

1．少人数教育の推進・接続教育の強化

アカデミック・グランドデザインに基づいた少人数教育の推進・接続教育の強化に取り組むとともに、学校教育法・指導要領改訂に伴うカリキュラム等の検討を進めます。

一人一人に行き届いた教育を行うために、少人数クラス（32人）の検討

英語の4 - 4 - 4 制導入に伴う接続教育の検討

学習・進学の記録の共有と授業・学校行事の相互参観の推進

各種連絡会・合同研修会の充実

新学習指導要領に対応するカリキュラムの検討と学校評価制度の推進

2．平和教育の充実

平和教育を充実させるために、2005年度より沖縄旅行を実施してきました。本年度も引き続き、沖縄の歴史と、沖縄の人々が現在抱えている基地問題を通して、平和とは何か、平和を実現するために何をなすべきかを考えさせるために、次の事柄を行います。

課題図書レポート

沖縄ノートの作成

平和講演会の開催

沖縄旅行の報告、感想発表・展示

平和教育委員会を定期的で開催し、平和教育の充実を図る

3．安全安心な教育環境整備

1) 南校舎アリーナスポットクーラー設置

近年、生徒がアリーナにおいて熱中症になるケースがあるため、安全に授業・クラブ活動を行えるよう、アリーナのフロアに6台のスポットクーラーを設置します。

2) ICカード（身分証明書）による図書貸し出し検索システムの導入（600万円）

プライバシー・個人情報保護のために、貸し出しカードを使う現在の方式を改め、ICカード・バーコードによる図書貸し出し検索システムを導入します。

3) 保護者とその他の人とを識別するため、保護者全員に名札を配布します。

【初等部】

「ひとりひとりとはかけがえのない存在として 命と賜物を神様から頂いています」

青山学院が創立から 130 年余の間貫き通してきた建学の精神、
それは「神を知り」「神を信じ」「神の愛に応える」人格の育成です。
このキリスト教教育こそが、
真に「人を人として育てる」教育であると考えています。
これからの時代は、
他者と「共に生きる」生き方がますます問われるでしょう。
「感じる心」「考える力」「行動する活力」を大切にした教育が、
青山学院初等部の教育です。

初等部は、2008 年度の事業計画を下記のとおり策定しました。

1．初等部英語教育の充実

青山学院全体の英語教育を見直して充実を図るため、初等部から高等部まで 12 年間の英語教育を 4 - 4 - 4 制で実施することに伴い、2008 年度から初等部の英語教育を 1 学年より実施することになりました。

これに伴って教育課程及び授業時数を変更するにあたり、小学校学習指導要領に基づいて検討し、現行の「総合的な学習の時間」(コンピュータ、英語、宿泊行事)を「総合活動」と改め、各学年「総合活動」または「特別活動」の中で英語教育を行っていきます。

2．キリスト教学校教育同盟小学校協議会開催

2008 年 6 月に私立学校キリスト教学校教育同盟小学校協議会が青山学院初等部を会場校として開催されます。当日のプログラムは礼拝、開会式、授業参観、昼食(学校給食)、分科会、閉会式等を予定しています。学外学校関係者約 350 名の出席が見込まれます。

3．グラウンド整備(芝生及びトラックメンテナンス)

2007 年夏にグラウンド芝生工事が完了し、初等部のグラウンドは、児童が健康的に裸足で走り回れるグラウンドとなりました。2008 年度からは、児童の安全を守り、またグラウンドのコンディションを最適に保つため、芝生の刈り込み、施肥、灌水、除草等の維持管理とトラック部の砂・塩化カルシウム散布等のメンテナンスを行っていきます。

日常の芝生維持管理については、昨年度より芝生管理会社の指導の下、保護者ボランティア及び教員を中心として月に数回芝刈り、除草、散水等を行っていますが、今年度も引き続き行う予定です。

【幼稚園】

幼稚園の教育（保育）理念

青山学院幼稚園は、青山学院教育方針に基づき、豊かな自然の中でいろいろな人と共に生活することにより、神様の恵みと守りを感じ、祈りと感謝と喜びの生活が実現出来る保育を目指すものである。

幼稚園は、教育環境の整備に関わる 2008 年度の事業計画を下記のとおり策定しました。

1．ブランコ保護柵設置

2008 年度も引き続き、保育環境整備を一層促進させていきます。活発に動き回る園児を危険から守るには、とりわけ園庭に設置されている固定遊具の安全を図ることが不可欠であることから、2008 年度は、園児に人気があり危険度が高いブランコに保護柵を設置します。

安心して園児がブランコに乗ることができるよう、現存する侵入防止柵である鉄枠にクッションを巻き、万一落下するようなことがあっても、身体を強打しないように、安全強化に努めます。

2．施設の整備

- 1) 玄関ホール網戸設置
- 2) 用務員室改修工事